

演 題 名 5年ぶりの音楽ライブ鑑賞を目標に歩行能力の改善が図れた症例

施 設 名 介護老人保健施設 ライフサポートひなた

発 表 者 ○発表者 黒川良輔(理学療法士)

概 要

【はじめに】要介護状態となり5年間行けなかった音楽ライブに、友人と行くことを目標にリハビリテーションに取り組んだことで歩行能力の改善が図れた症例を経験したため報告する。

【症例紹介】50代女性、要介護5。2016年10月頸椎後縦靭帯骨化症、胸椎黄色靭帯骨化症の診断を受け、C3-7椎弓形成、T1-2椎弓部分切除による椎間孔拡大術施行。同年12月に竹川病院入院。2017年2月に自宅退院後、同年6月に病状悪化し他院入院。12月の自宅退院後から、ケアセンターけやき訪問看護3回/週と当施設通所リハ2回/週の利用開始。既往歴：未破裂椎骨動脈解離、腰椎椎間板ヘルニア
理学療法評価 MMT：四肢2～3、体幹頸部2 感覚：表在深部ともに重度鈍麻 痛み：VAS8(頸部や転落による下肢外傷部分) MMSE-J：29点 BMI：25.1 握力：右1kg左2kg ADL：BI35点 電動車椅子自操自立、立ち上がり軽介助、移乗はリフトで訪問介護二人対応だが、週1回頻度で転落事故発生。痛みや不眠によってリハビリが進まない状況であった。

【治療(ケア)計画】ケアプラン：生活動作を怪我なく行う。身辺動作の自立。リハビリ方針：通所リハでは短下肢装具を用いて、歩行・階段練習を段階的に実施。リハビリ会議で進捗状況をケアマネと共有。自宅で訪問介護へ移乗方法を指導。PTOTの友人による自主トレ6時間/日。

【経過】2021年11月：けやき訪問看護PTと共同し、自宅で訪問介護へ移乗動作の介助指導を実施してきたことで、転落がなくなり、疼痛や不眠状態が軽減し体調が安定。短下肢装具を両側着用し、平行棒立位まで可能。足を一歩出すことは困難。2022年2月：5年ぶりに平行棒歩行が一往復可能となり、本人から『3月にライブに行きたい。会場の手すりのない階段を3段昇れるようにしたい』と希望あり。会場を想定した階段昇降練習を開始。加えて友人が毎日6時間の自主トレを実施。3月：杖歩行軽介助で可能。